

日特建設株式会社



本店			
〒104-0061	東京都中央区銀座8-14-14	TEL.03(3542)9111(大代表) FAX.03(3542)9133	
札幌支店			
〒004-0041	札幌市厚別区大谷地東4-2-20	TEL.011(801)3611(代) FAX.011(801)3633	旭川営業所 TEL.0166(34)1204 函館営業所 TEL.0138(35)7010 道東営業所 TEL.0155(24)5600
東北支店			
〒982-0036	仙台市太白区富沢南1-18-8	TEL.022(243)4439(代) FAX.022(243)4438	青森営業所 TEL.0177(73)7275 盛岡営業所 TEL.019(663)6100 三陸出張所 TEL.0193(27)8157 秋田営業所 TEL.018(863)3035 山形営業所 TEL.023(641)5988 福島営業所 TEL.024(536)1800
東京支店			
〒104-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	TEL.03(5645)5100(代) FAX.03(5645)5107	長野営業所 TEL.026(228)6761 群馬営業所 TEL.027(253)2305 宇都宮営業所 TEL.028(637)3567 水戸営業所 TEL.029(246)2700 埼玉営業所 TEL.048(647)6981 千葉営業所 TEL.043(225)8023 横浜営業所 TEL.045(450)5553
北陸支店			
〒950-0864	新潟市東区紫竹5-26-1	TEL.025(241)2234(代) FAX.025(241)2229	佐渡営業所 TEL.0259(55)2332 上越営業所 TEL.025(544)4750 富山営業所 TEL.076(452)2766 金沢営業所 TEL.076(240)0111 福井営業所 TEL.0776(38)6499
名古屋支店			
〒460-0008	名古屋市中区栄1-16-6	TEL.052(202)3211 (代) FAX.052(202)3212	岐阜営業所 TEL.058(275)0206 静岡営業所 TEL.054(202)2090 三重営業所 TEL.059(225)6575
大阪支店			
〒541-0048	大阪府中央区瓦町2-2-7	TEL.06(6232)2109 (代) FAX.06(6232)2108	京滋営業所 TEL.075(646)5890 神戸営業所 TEL.078(577)2570 奈良営業所 TEL.0747(22)5571 和歌山出張所 TEL.0739(23)3110 高松営業所 TEL.087(840)4151 松山営業所 TEL.089(946)0771 高知営業所 TEL.088(861)4171
広島支店			
〒730-0803	広島市中区広瀬北町3-11	TEL.082(231)2109(代) FAX.082(231)2310	鳥取営業所 TEL.0857(31)0823 松江営業所 TEL.0852(21)7317 岡山営業所 TEL.086(226)1429 山口営業所 TEL.083(925)4258
九州支店			
〒812-0027	福岡市博多区下川端町1-3	TEL.092(271)6461(代) FAX.092(271)6482	佐賀営業所 TEL.0952(37)6912 長崎営業所 TEL.0957(36)5001 熊本営業所 TEL.096(382)1639 大分営業所 TEL.097(552)4222 宮崎営業所 TEL.0985(23)1406 鹿児島営業所 TEL.099(227)0901 沖縄営業所 TEL.098(861)0739
直轄グラウト部			
〒104-0004	東京都中央区東日本橋3-10-6	TEL.03(5645)5111(代) FAX.03(5645)5112	
ジャカルタ 駐在員事務所 (インドネシア共和国)			
	Epicentrum Walk Lantai 5 Unit B515 Jl. HR Rasuna Said, Kuningan, Jakarta 12940, Indonesia	TEL.+62-21(5610)0988 FAX.+62-21(2994)1991	

□ 問い合わせ先 □

日特建設株式会社 経営戦略本部

〒104-0061

東京都中央区銀座 8-14-14

TEL 03-3542-9164 ／ FAX 03-3542-9220

ホームページ「お問い合わせ」フォーム (<https://www.nittoc.co.jp/toi1.html>) からの
お問い合わせが便利です。

ご意見、ご感想をお寄せください。当社の活動や報告書の改善に役立たせていただきます。

CSR報告書 NITTOC 2015



「守る」技術で、つながる、未来へ。



もくじ

■ 社長メッセージ	2
■ 会社概要	3
■ 経営理念・経営ビジョン	4
■ コーポレート・ガバナンス	5
■ 行動規範ーコンプライアンス基本方針ー	6
■ 工法紹介	7
■ 現場紹介	9
■ 人材育成・就労制度	11
■ 海外事業	13
■ 環境活動	15
■ 社会貢献	19

■ 編集にあたって

対象期間：平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月

対象範囲：当社とグループ会社の活動

発行時期：平成 27 年 6 月



社長メッセージ

〇●〇

当社は現在、「基礎工事における総合技術力と効率的な経営で、安全・安心な国土造りに貢献する会社」の経営理念の下、中期経営計画〔StepⅠ〕の「新生日特の創生」、〔StepⅡ〕の「安定基盤の構築」を終え、昨年より中期経営計画〔StepⅢ〕の「将来の成長戦略」に取り組んでいます。

これらの活動はすべて、社会のさまざまな要請や期待に応えること、つまり CSR（企業の社会的責任）の履行を前提としています。たとえば、それはコンプライアンスであり、適時・適切な情報開示であり、社会貢献、環境活動、投資家満足・顧客満足・従業員満足の向上等、多岐に及びます。

一方、我が国、そして建設業界は転換期を迎えています。

一つは、戦後の高度成長から 40 年余りを経て、社会資本を造る（つくる）時代から維持補修の重要性が高まっていることです。

もう一つは、未曾有の自然災害を経験し、防災意識が高まり、災害に対する備えが「減災」という観点で見直されたことなどにより、政府の国土強靱化策が進められていることです。

当社は、従来のコスト縮減や環境への配慮というニーズに加え、こうした社会の新しい要請に応えることも CSR の一環であると認識しています。

また、工事施工に際し、周辺住民の方々へ説明を行い、ご理解を得ることや、様々な活動を通じて地域貢献を行うことも、企業として重要であると認識し、それらによって自らの企業価値を高めていく所存です。

代表取締役社長 中森 保

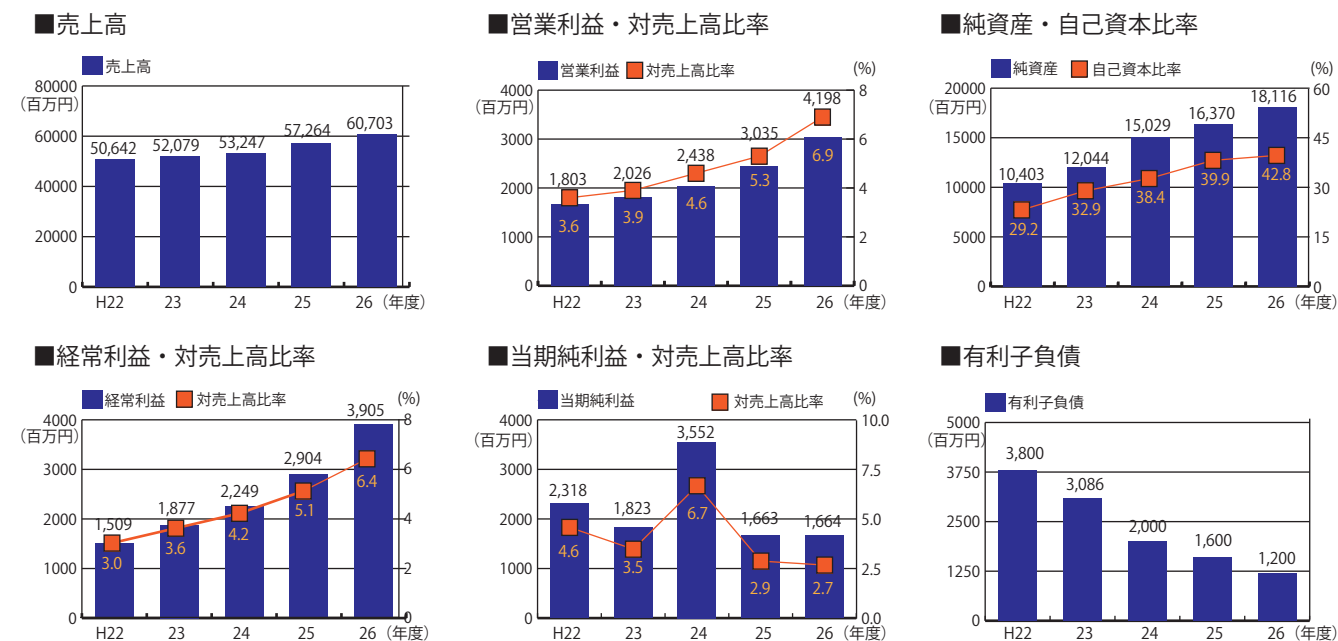
会社概要

〇●〇

● 会社概要 平成27年3月31日現在

■商号	日特建設株式会社 NITTOC CONSTRUCTION CO.,LTD	■許可	建設業許可 特定建設業 国土交通大臣（特-23）第211号
■本店	東京都中央区銀座8丁目14番14号	■登録	建設コンサルタント登録 登録番号 建26第15号
■設立	昭和22年12月17日		測量業者登録 登録番号 第(14)-435号
■資本	発行済株式総数 43,919千株 資本金 60億円 東京証券取引所 第一部上場		地質調査業者登録 登録番号 質24第2号
■代表者	代表取締役社長 中森 保	■免許	宅地建物取引業 東京都知事 (2) 第91766号
■社員数(連結)	技術系社員 717名 事務系社員 126名 計 843名	■指定	土壤汚染調査機関指定業者 指定番号 環2003-1-20
■業績(連結)	売上高 607億円 経常利益 39億円	■事業所	本店 / 東京 支店 / 札幌・東北・東京・北陸・名古屋・ 大阪・広島・九州 直轄部 / 直轄グラウト部
■営業種目	総合建設業 ・土木・基礎 ・環境・地質コンサルタント		

● 業績(連結) 平成27年3月31日現在



経営理念・経営ビジョン

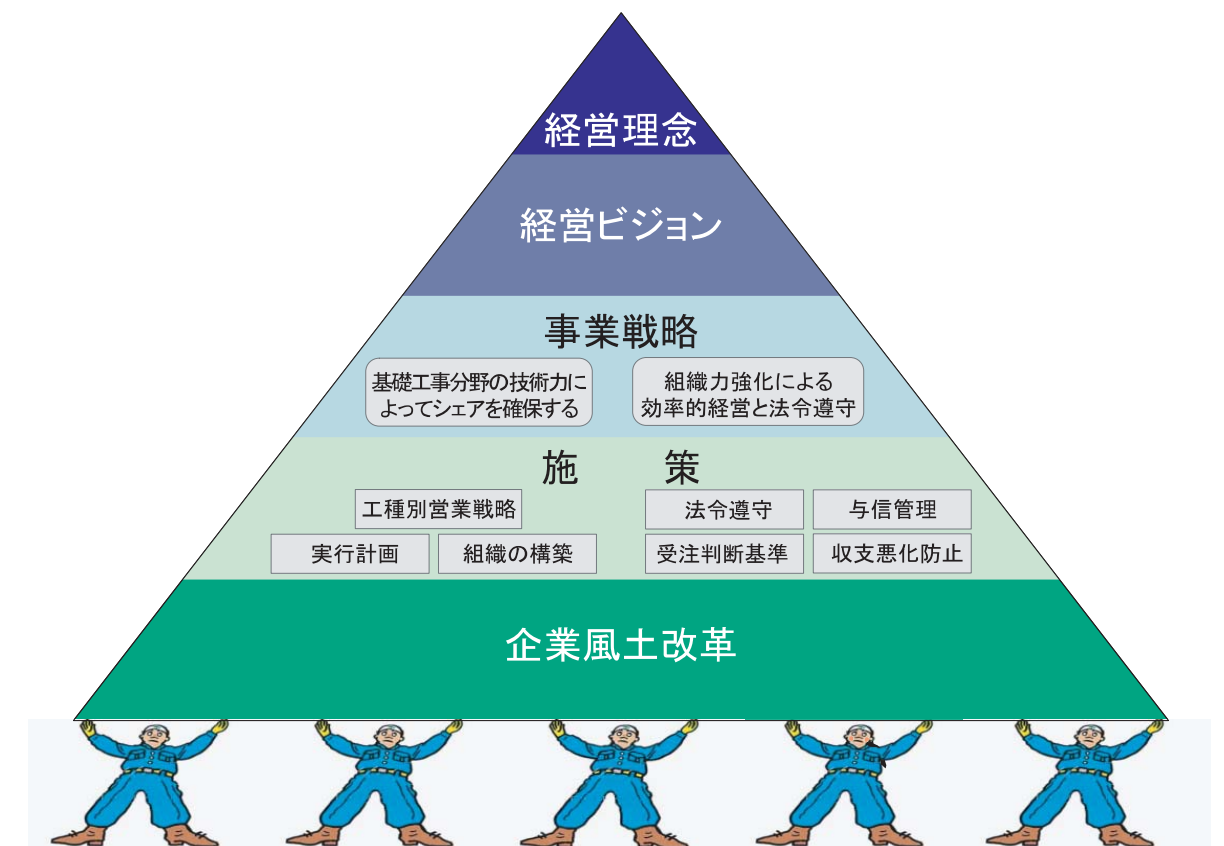
〇●〇

経営理念

基礎工事における総合技術力と効率的な経営で、安全・安心な国土造りに貢献する会社

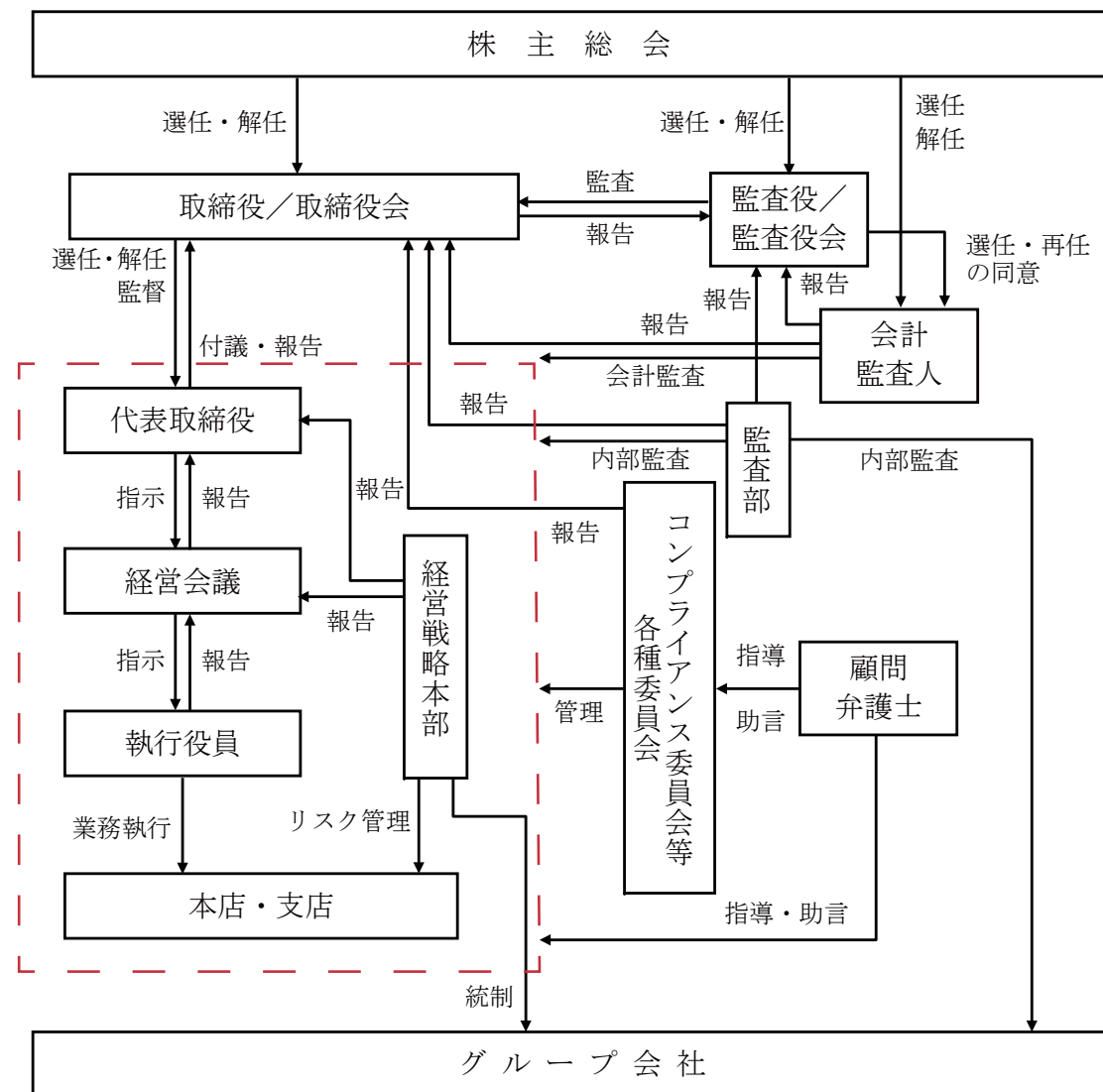
経営ビジョン

信頼される技術力に培われた、環境・防災工事を主力とした基礎工事のエキスパート



● コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業活動を支えるすべてのステークホルダーの利益を重視し、かつ各種法規範のみならず、社内規範や社会の良識・常識をも遵守した企業倫理の重要性を認識するとともに、企業の継続的な発展と、社会的信用の獲得、また、反社会的集団に対する不当利益供与の根絶等、経営の透明性、健全性を高め、社会基盤の整備に貢献できる組織の構築をコーポレート・ガバナンスに関する基本的な方針としております。



私たちは、事業を営む者として企業の社会的責任を自覚し、法令や社内外のルールおよびその精神を遵守するとともに社会的良識をもって、以下の通り行動します。

- 1 私たちは、社是である「日々是進歩」、および社訓である「安全第一、信用確立、技術発展」を常に踏まえた企業活動を行い、経済や社会の発展に貢献します。
- 2 私たちは、法令や社内ルールを遵守するだけでなく、企業倫理に基づいた企業人として誇れる行動を通じて、社会からの信頼に応えるように努めます。
- 3 私たちは、「開かれた企業」として適時・適切に企業情報の提供を行なうとともにステークホルダーをはじめとする社会からの声に耳を傾け企業活動に反映させるように努めます。
- 4 私たちは、環境問題への取組は企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動します。
- 5 私たちは、地域で働く企業人として地域との融和に努め、地域活動にも自主的に参加し、地域社会に貢献できるように努めます。
- 6 私たちは、お客様の要望に誠実に応えとともに、お客様の目線でものを考え、お客様本位の対応を行ないます。
- 7 私たちは、取引先と透明性の高い公正で健全な関係を築き上げ、相互の繁栄を考えた取引を行なうように努めます。
- 8 私たちは、誠実かつ健全な企業活動を継続することで、社会から信頼される企業となるよう努めます。
- 9 私たちは、従業員の人權を尊重し、個性を認め合い、十分なコミュニケーションを心掛けることで、安全で快適な職場を築きます。
- 10 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体には厳しく対処します。

「安心・安全な社会の構築に向けて」 ～日特建設の取組み～



コンクリートを使用しない環境に優しい斜面防災技術

ジオファイバー工法

全面緑化が可能な環境配慮型のり面保護工「ジオファイバー工法」は、陸域から河川やダム護岸など幅広く適用されています。斜面の安定だけでなく、周辺環境との調和、生物多様性や生態系保全への対応、循環型社会の形成、コスト削減など様々な機能を併せ持つ工法として数多くの実績があります。



老朽化したモルタル吹付法面をはつり取らず補修・補強

ニューレスプ工法

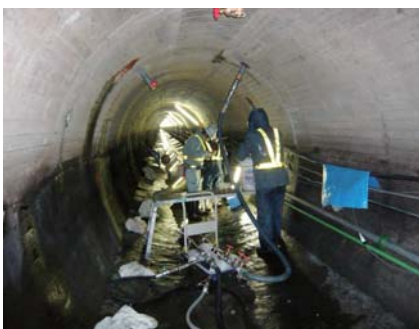
既設モルタル吹付法面を補修・補強する「ニューレスプ工法」は、有機繊維補強モルタルを用いて、質の高い補修・補強を図るとともに、はつり作業がないことから、作業の安全性が向上します。また、吹付法面の健全度診断システム「Slope Doctor」との組合せにより最適な法面補修・補強対策を選定するといった、法面の延命化や維持管理コストの低減にも貢献します。



高強度モルタルを1km先まで圧送

キロ・フケール工法

1kmを超える長距離圧送が可能な高強度モルタル吹付「キロ・フケール工法」は、長距離圧送とともに、高い急結性によりさまざまな角度・形状の対象物への吹付けが可能です。施工位置までの距離が長い導水路トンネルや山間部の橋脚の断面補修・増厚に適用されています。



水を汚さないセメント系充填工法で、構造物の延命化を図る

パフェグラウト工法

構造物や基礎地盤の空洞・空隙充填を行う「パフェグラウト工法」は、水中不分離性と可塑性を備え、長距離圧送が可能であるため、ダム魚道下部や導水路背面の空洞充填などに適用され、構造物の延命化を実現します。

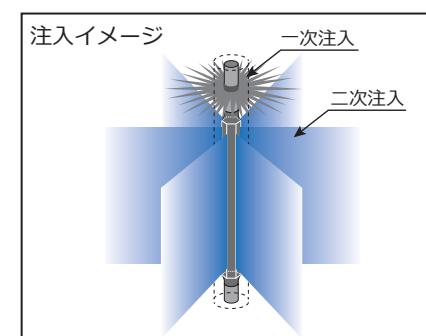
斜面・法面对策などの環境防災技術、既設構造物の維持補修技術、地盤改良・薬液注入といった都市再生技術など、数多くの経験と実績により裏打ちされた技術とノウハウで、安心・安全な国土造りに貢献できるよう今後も取り組んでまいります。



地中拡翼型の地盤攪拌改良工法

WinBLADE工法

拡翼型機械式攪拌で地盤を改良する「WinBLADE工法」は、地中で開閉可能な攪拌翼を使用して原位置土とセメントスラリーを攪拌混合することにより、ソイルセメントコラムを造成します。既存の工法では困難であった斜め・水平方向の造成が可能であり、狭隘な現場でも対応できます。



長い浸透注入区間により高速・高品質に地盤を改良

Newスリーブ注入工法

ダブルパッカを用いて地盤を改良する「Newスリーブ注入工法」は、新型の注入パイプ「ポリゴンパイプ」を採用することで、長い浸透注入区間により高速で高品質な地盤改良を可能としました。



液状化防止・地盤強化を効率よく低コストで実現

エキスパッカ-N 工法

液状化防止・地盤強化など安定した地盤を構築する「エキスパッカ-N工法」は、高速・広範囲に注入材を吐出する特殊な注入管によって、既設構造物に影響を与えることなくスピーディに地盤を改良します。



国内最大級のロータリーパーカッションドリルによる削孔技術

EinBand ドリル

国内最大級のスペックを持つ「EinBandドリル」による削孔技術を確立しました。従来機と比べて2倍以上の削孔能力を持ち、港湾やコンクリートダム・砂防ダムの耐震補強などへの適用が可能です。

現場紹介

〇●〇

私たちにできる仕事をしっかりと着々と行うことが、震災復興及び防災・減災への貢献と考えています。安全・安心な国土づくりを目指し、私たちの技術を駆使して貢献して行きます。

● 東日本大震災 復旧復興への取組み

■ 下綾織法面工工事(岩手県遠野市)

東日本大震災の被災地と内陸をつなぎ、復興を支援する道路である東北横断自動車道釜石秋田線(遠野～宮守間)。東北横断自動車道釜石秋田線は、釜石市を起点として、遠野市、奥州市を經由、東北縦貫自動車道に合流し、秋田市に至る総延長211kmの高速自動車国道です。その中で当社は、遠野市を通過する一部の法面工事を担当しました。

[発注者:国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所、概要:法面工]



施工前



完成後

■ 大槌復興CMR工事(岩手県上閉伊郡大槌町)

岩手県上閉伊郡大槌町は、東日本大震災で、大きな揺れと津波、またそれらによる火災で、壊滅的な被害を受けました。今回は、地盤を盛土により嵩上げし、津波に対しても耐えられるように地盤整備工事をしました。

[発注者:大槌町、概要:地盤改良工、盛土]



施工中(大槌町 町方地区全景)



施工中(盛土側面-法枠施工状況)

当社の技術は、安全を守るだけでなく、景観にも配慮した技術があります。貴重な文化財や史跡の安全を守りつつ景観を復元する復旧工事に、弊社のジオファイバー工法等が使われています。

● 文化財等の景観復元への取組み

■ 清水寺法面復旧工事(京都府京都市)

2013年9月の台風18号の大雨により、世界遺産である清水寺境内の斜面が崩壊しました。2014年から2015年にかけて、地山補強土工やグラウンドアンカー工で崩壊斜面を補強し、ジオファイバー工法で覆う工事を行っています。これから草木が成長し、緑豊かな景観が戻ってきます。

[発注者:清水寺、概要:地山補強土工、グラウンドアンカー工]



施工中(清水寺の舞台から見える斜面)



施工中(国重要文化財「子安塔」の下の斜面)

■ 鹿島神宮斜面復旧工事(茨城県鹿嶋市)

茨城県鹿嶋市の鹿島神宮では2013年10月の台風26号で土砂崩れが発生した斜面の復旧工事でジオファイバー工法が採用されました。セメントを使用しないため、斜面脇に位置する御手洗池を汚すことなく施工を完了しました。

[発注者:鹿島神宮、概要:法面工]



施工前



完成後

人材育成・就労制度

人を育てていくこと、それが未来を創ることになる

● **教育制度** 一人ひとりを大切に、社員の可能性を引き出す人材育成システム

「人と社会と環境に調和する特殊技術を、未来のために」
私たちはこのコンセプトのもと、未来の夢のため、将来を見据えた教育制度を整えています。
さらに社員一人ひとりの気持ちを大切に、個性を伸ばしていくことで、優れた専門性とさまざまなものごとに興味を持つ、多様性を併せ持った人物への成長を促していきます。

階層	研 修					外部派遣		技能資格
	階層別研修	カテゴリ共通研修	カテゴリ別研修			国 内	海外	社内認定資格
本部長 副本部長 支店長 副支店長 事業部長 部長 次長・営業所長 課長 工事長 課長代理 課長補佐 上級主任 主任 係 初任	支店長・事業部長研修 営業所長研修 工事長研修 課長補佐研修 主任・若手研修 新入社員フォロー研修 新入社員研修	各種職場内(COIT) のO内部監査員養成研修 研修語学(英語) 海外視察・研修 海外工事派遣・研修 人事評価研修 地山点検トレーナー教育 法面事業教育・士教育 資格取得者支援講習会 地山の点検管理者教育 法面安全管理者教育	作業所・工事管理・技術 工事別研修 工事長研修 工事部長・工事課長研修 担当者会議(機材・安全・技術) 技術発表会 技術士受験講習会 研究開発報告会	施工指導 特別教育 施工開発推進部初任研修	営 業 営業部長研修 営業所長研修	事務管理 事務管理課長研修 事務担当者実務研修	国内派遣 海外派遣	社内認定資格 各種技能資格取得支援制度 社内認定資格制度

● **資格取得支援** 社員は財産、そのスキルアップが会社のスキルアップ

事業を行っていく上で必要な資格について、各種の支援を行っています。
特に、現場代理人を務めるために必要な1級土木施工管理技士については、研修や論文添削などを行っています。また、技術士については、日特建設技術士会が支援の中心となり支援を行っています。全般には、資格取得者には資格手当を支給し、取得へのモチベーションを高める働きをしています。

	手当を支給する資格(取得一時金を含む)
技術系	技術士、1級土木施工管理技士・2級土木施工管理技士(土木、薬液注入)、1級・2級建築施工管理技士、1級・2級建築士、1級・2級造園施工管理技士、1級・2級管工事施工管理技士、1級・2級建設機械施工技士、1級・2級電気工事施工管理技士、第1・第2・第3種電気主任技術者、第1種・第2種電気工事士、甲種・乙種火災取扱保安責任者、測量士、測量士補、地質調査技士、基礎施工士、地すべり防止工事士、第1・第2種下水道技術検定合格者、推進工事技士、コンクリート診断士、VEリーダー、技能士(1級・2級さく井)、自動車整備士(1級・2級・3級)、甲種・乙種危険物取扱者、労働安全・衛生コンサルタント、公害防止管理者、公害防止主任管理者、グランドアンカー施工士、建築積算士、工事管理者(新幹線・在来線)、ジェットグラウト技士、のり面施工管理技術者、土壤汚染調査技術管理者、水産工学技士(水産土木部門)、1級舗装施工管理技術者 シビルコンサルティングマネージャー(RCCM)
事務系	公認会計士、公認会計士補、税理士、弁理士、不動産鑑定士、不動産鑑定士補、宅地建物取引主任者、土地家屋調査士、1級・2級建設業経理士、システム監査技術者、ITストラテジスト(システムアナリスト)、システムアーキテクト(アプリケーションエンジニア)、プロジェクトマネージャ、ネットワークスペシャリスト、データベーススペシャリスト、情報セキュリティスペシャリスト、ITサービスマネージャ、社会保険労務士、衛生管理者、応用情報技術者(第1種情報処理技術者・ソフトウェア開発技術者)、3級建設業経理事務士、基本情報技術者(第2種情報処理技術者)、ITパスポート(初級システムアドミニストレーター)、1級簿記検定

● **就労制度** 働きやすい職場だからこそ、最高のパフォーマンスが生まれる

各種の就労制度を取り入れ、社員に働きやすい職場を目指しています。
例：育児・介護休暇/休業、短時間勤務、自己啓発研修(LGAT)・ボランティア活動休暇等

社員の声



昨年2年間の育休から復職し、現在時短勤務で働いています。子供が生まれる前までは時短勤務制度は3歳までの利用で充分だろう、と軽く考えていましたが・・・甘かった！育児と仕事の両立は想像よりもはるかに大変で、制度がなかったらとくに音をあげていたと思います。幸いにも時短勤務制度が就学前まで利用できますので、子供の成長のペースに合わせて勤務時間を調整して行こうと思います。

東京支店 原 恵子

● 社内表彰制度 一人ひとりが輝く会社に

社内の活性化と社員のモチベーション向上を目指し、様々な表彰制度を設けています。

社員の声



担当する工事現場で大型土のうの固定に困り、既製品ではよいものがなかったため、金網枠を利用して製品を試作し、使用しました。この試作品を改良し、“フレコンケース”と命名して、社内の第1回アイデア募集に応募し、社長賞を頂くことができました。構造がシンプルで、安全に作業でき、用途も大型土嚢作成だけでなく、グラウト材の処理、骨材等の保管、震災における除染作業など多岐にわたって使用されることが、評価されました。今回の受賞は、現場で工夫した製品が評価され、非常に感謝しております。今後も経験と自由な発想を生かして、新しい物創、改善をし、会社及び社会貢献に努めていきます。

東北支店 外村 勉

東北支店 外村 勉

● コミュニケーション活動 オフタイムを支援

社員会では、昨年度年度より社員同士のコミュニケーション活動（通称「コミ活」）に対し、活動費補助を行っています。仕事上の関係だけではなく、あたたかい人間関係づくりを推進しています。



■フットサル愛好会

東北支店には、フットサル愛好会FC NITTOCがあります。2014年9月には、ワッセ仙台に27名が集まり、3チームに分かれての練習試合を行いました。体力に自信のある入社1年目の若手から入社30年を上回るベテランまで、1つのボールを蹴ったり追いかけたりと一旦試合がはじまると皆、真剣そのものです。健康的な休日を皆で楽しみました。



■社員旅行

大阪支店の神戸営業所、奈良、和歌山営業所では、2015年1月、有志21名で、城崎温泉へ社員旅行に行きました。夜、ゆっくり温泉につかったあとは、宴会を行い、呑んだり食べたり、にぎやかに楽しみました。宴会ではビンゴ大会を行い、それぞれカニなどの賞品があたった参加者は皆大喜びでした。

● グローバル社員の育成 国際社会への対応

海外研修や語学研修、海外工事現場への出向、インドネシア人技術者の教育を通じ、国際社会への対応を図っています。当社に勤務するグローバル社員のご紹介です。



日特建設はインドネシアで活躍の領域を広げており、私は2014年の10月から働き始めました。初めて配属されたプロジェクトはランチャマヤでの法面保護でした。日特のスタッフとして工程、品質、安全、原価管理などいろいろな業務に携わりました。私が前に所属していた会社では一人の職員には一分野の仕事しか与えられなかったので、現在の方がやりがいや面白さを感じています。現在は業務全体のスキルアップを目的に、日本の本社で研修を受けています。このような機会をもらえたことをうれしく思い、たくさん学んで、インドネシアの発展に貢献したいと思います。

イエシ・プラティウィ (Yesi Pratiwi) 所属: 経営戦略本部海外事業部
国籍: インドネシア



私は2014年に日特建設のジャカルタ駐在所で採用され、今年には日本の本社で現場研修や技術講習などを受けています。大学での専攻は設計だった私にとって、現場業務は私にとって新しい世界なのですが、日特建設は研修が充実していて手厚く支援してくれています。現場研修では、技術や機械設備に関する知識等、多くを学んでいます。実際に私たち外国人スタッフに要望はないかと聞いてくれたり、インドネシア人の文化・宗教に対して配慮があり、イスラム教徒である我々を尊重して、事務所にお祈りのための部屋を設けてくれたりして、快適に業務を進める環境を作ってくれています。これからも学びを深めていき、日特の技術がインドネシアでも多く取り入れられるように頑張っていきたいです。

アングン・ルピタ (Anggun Lupita) 所属: 経営戦略本部海外事業部
国籍: インドネシア



私は2014年の2月から日特建設で働き、海外事業部の総務として翻訳、国内外出張の手配、精算処理などの業務をしています。結婚を機に外国から来た私に対して、皆さんとても歓迎的で、学びの機会、挑戦の機会を与えてくれます。私が憶えているのは、日特建設で働き始めて最初の数カ月、日本語がさほどわからない私に対し、先輩社員がそれぞれの業務を手とり足とり丁寧に教えてくれたことです。本当に感謝しています。

この会社では性別の区別なく平等で、女性に対する尊敬、機会も十分に確保されていると感じます。日特がワークライフバランスの確保を推奨しており、例えば水曜日はNo残業デーとされているため、私はフルタイムで働きながらも、家業も完全にこなすことができています。また幹部社員が、女性職員が結婚し、子供が生まれ母親になることに理解、協力してくれることを本当にうれしく感じています。女性を大切にしてくれるこの会社で働けることを大変にうれしく思います。

高橋クリスティン 所属: 経営戦略本部海外事業部
国籍: 香港

● 海外工事への取り組み

現在、当社ではインドネシアのジャカルタに駐在員事務所を設け、海外工事に注力しています。日本と慣習が違い、現地の作業員と共に試行錯誤をしながら、工事を行っています。今後も、現地作業員を教育するとともに、当社も学びながら、工事実績を積み重ねていきます。そこで、インドネシア災害の実態と当社のその対策工事の事例について、ご紹介します。



■ インドネシアの土砂災害の形態

インドネシアの土砂災害は大きく①集中豪雨、②地震、③火山噴火の3つに起因します。気候は乾期と雨季の2シーズンですが、近年は異常気象が続いており、乾期に雨が続きたり、雨季に短時間で止むはずのスコールが一日中続く事象も発生しています。インドネシアの南側は大陸プレートの境目で、地震も頻繁に発生します。また、スマトラ島、ジャワ島は活火山を多く保有し、毎年ニュースでどこかの火山が噴火し、多くの犠牲者が出ていると報道されています。

インドネシアでは雨季になると、都市部では大洪水、山間部では地すべりのニュースが毎日報道されます。毎年多くの人命が失われますが、人命救助のため近隣住民と軍隊が出動して土砂を撤去する作業をし、あとはそのまま土砂を放置した状態とされる事が多くあります。



■ インドネシア災害対策工事の事例

当地の対策工の主たる工種は現場吹付法枠、仮設足場、グラウンドアンカーであり、ローカル管理職員、作業員にとって初めての作業でした。事業の計画段階で、工事内容をいかにして皆に理解してもらうかが大きな課題であり、工程を管理する上で必要不可欠でした。ローカル作業員には計画段階で写真を引用して作業の流れを説明し、管理職員には、動画や写真を引用しイメージしてもらうことから始めました。また、安全作業について理解してもらうことも大変苦労しました。全ての作業において安全かつ品質高く仕上がるよう、現地で「やって見せて教える」ことで理解してもらい工事を進めました。その結果、無災害で工事を完了できました。

■ 今後アジアを含む海外における当社の貢献

今回のインドネシアでの法面・地すべり対策工は、資機材の調達からワーカーの契約等、当社にとって初めての経験でしたが、優秀なローカルスタッフの協力もあり成功する事ができました。今後彼らが自国で防災に貢献し、多くの人命を守る事ができることを期待しています。インドネシアの土砂災害の形態は日本と類似しており、日本で先人達が土砂災害と戦って培った知恵がインドネシアでも活かされることが期待されます。会社にとっても貴重な実績と経験を手に入れ、世界各地で活躍されている日系企業や、海外からのニーズに応えることが可能であると考えています。現在、日本は国の政策として「防災技術」を海外へ輸出しようとしていますが、当社も国内での得意分野である「防災技術」を次は世界で披露し、貢献していきます。

● 環境方針

日特建設は、環境・防災・都市再生・維持管理関連の専門技術を得意とする総合管理力のある会社として、広く社会に貢献することを経営理念の一つに掲げています。

技術本部は、この経営理念に基づき、下記の事項を環境方針として定めています。

1. 技術本部は、地球環境の保全活動を事業活動の一つとして位置付け、地球環境への負荷低減を目指し、環境マネジメントシステムの改善を図るとともに継続的向上に努める。
2. 限りある資源の有効利用と環境への負荷低減に向けた資源循環社会と、人を含む地球上の生物の環境共生型社会の構築に向けた研究・開発及び設計・検討を進める。
3. 廃棄物量低減、リサイクル率向上、省資源、省エネルギー、生態系保全、景観保全、環境保全型商品利用の促進などを目指した活動を推進する。
4. 環境関連の法規制、協定書、顧客及び業界の要求事項を遵守し、環境保全に関する社会的責務を積極的に果たす。
5. 技術本部の要員への環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努める。
6. 顧客及び地域社会との協調を図るため、必要に応じ環境方針及び環境保全活動の実施状況を公開する。

● ISO14001 を活用した環境マネジメントシステム

当社は、1999年2月に各環境関連部署の環境管理推進委員会から構成される「環境委員会事務局」を、1999年10月に環境管理責任者を委員長とする審議機関「環境委員会」を設置し、同年11月に「日特建設株式会社技術本部環境方針」を発表しました。その後、環境マネジメントシステムの構築を図り、2000年3月、技術本部としてISO14001環境マネジメントシステムを審査登録し、下記の環境目的を掲げています。

1. コピー用紙の使用量を減らし、環境への負荷を低減する。
2. 一般廃棄物のリサイクル率を高めて、環境への負荷を低減する。
3. 研究・開発業務実施要領で示された適用範囲のうち、技術本部の環境目的に示した著しい環境側面（有益な環境側面）を有する研究開発テーマを実施する。
4. 設計・検討業務実施要領で示された適用範囲の設計・検討業務について、

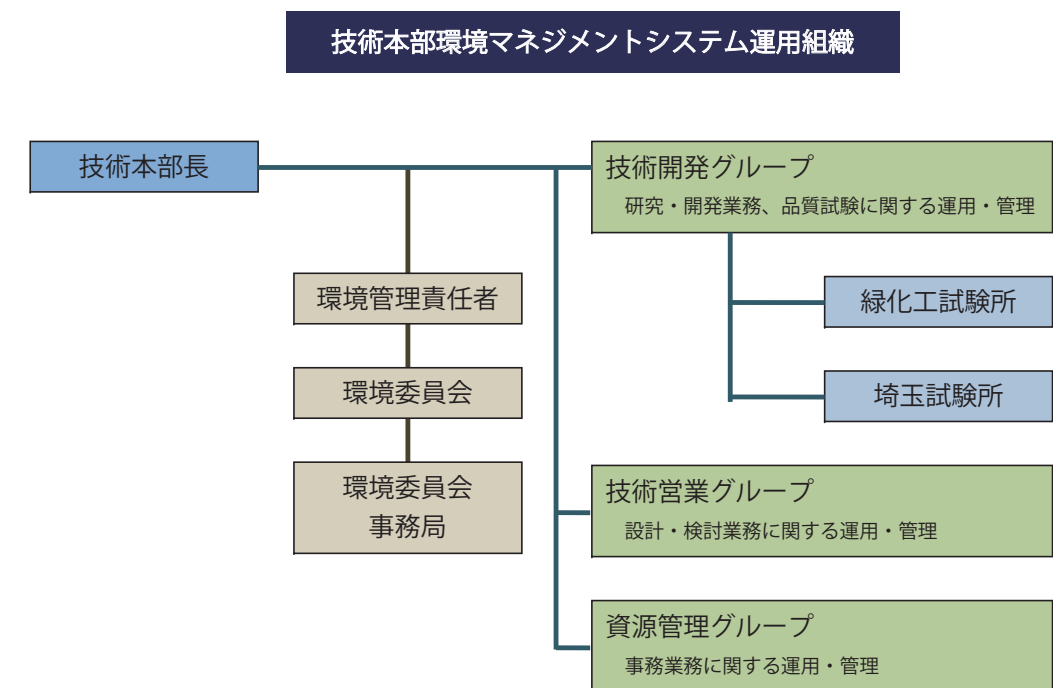
①省エネ	②省資源
③大気質保全	④水質保全
⑤自然環境保全	⑥地盤環境の保全
⑦掘削量の削減	⑧廃棄物の削減
⑨廃棄物のリサイクル	

上記9項目に該当する場合は確実に配慮する。

● 環境マネジメントの推進

当社技術本部は、平成18年4月に組織の変更が行われ、技術開発・技術営業・資源管理の3つのグループにより環境マネジメントシステム（EMS）の運用を行っています。

環境管理責任者は、環境目的・目標を達成するために「環境管理計画書」を策定し、技術本部の環境保全活動の推進を図るとともに、年度ごとの成果の評価・見直しを行い、次年度の各グループの目標を立案しています。



● ISO14001 を活用した環境マネジメントシステム

■ EMS外部審査（定期維持審査）

2014年12月9日（火）・10日（水）に、環境委員会事務局・技術開発グループ・技術営業グループ・資源管理グループを対象とした、一般財団法人日本規格協会による環境マネジメントシステム第5回更新審査が行われ、認証の更新が認められました。

審査の結果： 指摘事項：0件 観察事項：0件 改善課題：1件

■ EMS内部監査

当社は、環境マネジメントシステムがISO14001の規格や顧客・法的要求事項などに適合しているか、運用が定着しているかを検証するために、内部監査を実施しています。

2014年の内部監査は、環境委員会事務局・技術開発グループ・技術営業グループ・資源管理グループを対象に、社内のEMS内部監査員が実施しました。

内部監査結果： 重大な不適合（是正処置）：0件 軽微な不適合（是正処置）：0件 推奨事項：3件

● 環境マネジメントシステム教育

環境管理に必要な知識と技能を習得し、環境保全の維持・向上を図るため、技術本部転入者への環境マネジメントシステム転入者教育および、毎月の技術本部月例会議での環境マネジメントシステム教育を行っています。

2014年度環境マネジメントシステム教育実施状況			
	実施回数	教育内容	受講者数（延べ）
転入者教育	1回	・環境マネジメントシステムとは ・運用組織、登録範囲 等	6名
一般・専門教育	12回	環境目的・目標、環境管理計画、環境法令 環境に配慮した研究・開発、設計・検討 等	368名

● 2014年度 環境目的・目標達成状況

当社の環境マネジメントシステムは、環境への有害性評価を行いその低減を図るだけでなく、環境への間接的な有益性を評価するのが特徴です。環境に有益な工法を研究・開発、設計・検討することを通して、環境への負荷を低減する取り組みを行っています。

2014年度環境目的・目標達成状況				
管理項目	実施項目	管理基準値	結果	判定
コピー用紙	コピー用紙の削減	目標値を置かず、コピー用紙の使用量低減活動を継続する。	使用量 40%増加	×
廃棄物	リサイクル率の向上	目標値を置かず、廃棄物リサイクル率向上を不在時消灯等の活動を継続する。	リサイクル率 19.1%	○
研究・開発	環境に有益な研究・開発の実施	著しい環境側面（有益）に配慮した研究開発を実施する。	2テーマ中 2件完了	○
設計・検討	環境に有益な設計・検討の実施	設計検討帳票入力および環境に配慮した設計検討を実施する。	対象案件 5件	○

○：達成 △：ほぼ達成、目標値なし、対象案件なし ×：未達成

● 環境会計

■ 環境保全コスト

当社では、環境保全活動の効果的な推進と正確な情報開示を目的に、2001年度より環境会計を導入しています。環境保全コストは、環境省「環境会計ガイドブック2005年度版」を参考に算出しました。

項目	おもな活動	2014年費用	2013年費用	2012年費用	2011年費用
公害防止コスト	水質汚濁など公害防止対策	13	13	13	13
資源循環コスト	廃棄物分別、リサイクル、適正処理など	5,802	3,001	2,743	2,408
上下流コスト	環境に配慮した設計・検討に係る人件費	595	368	594	777
管理活動コスト	環境マネジメントシステム維持および教育	2,980	2,856	3,242	3,164
研究開発コスト	環境に有益な研究テーマの研究開発費	12,461	27,113	31,725	24,940
合 計		21,851	33,351	38,317	31,062

対象期間：2014年4月1～2015年3月31日 対象範囲：技術本部 単位：千円

■ 環境保全効果

環境保全コストに対する環境保全効果は、下表のようになりました（削減量は前年比）。今後も、廃棄物の削減、リサイクル率の向上に努め、環境負荷の低減に向けた取り組みを継続していきます。

効果の内容	指標の分類	単位	削減量	2014年	2013年	2012年	2011年
事業活動に投入する資源に関する効果	コピー用紙使用量	枚	▲64,500	227,500	163,000	172,500	116,500
	電気使用量	千kwh	14	255	269	262	269
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	温室効果ガス排出量	t-CO ₂	12	97	109	99	102
	一般廃棄物量	kg/年	1,881	10,527	12,408	13,128	13,265
	産業廃棄物量	m ³	▲122 [※]	207	85	76	77.6
	再生利用される廃棄物	kg/年	▲123 [※]	2,479	2,356	4,681	7,067

温室効果ガス排出量算出は、環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」による

※2014年11月の社屋移転に伴い、産業廃棄物等の発生量が大きく増加している。

日特建設は、社会から信頼される企業を目指し、社会貢献活動を推進しています。
その中から主なものを紹介します。

● 現場見学会

地域市民の方々に当社の事業を理解していただくための現場見学会等を、各地で開催しています。



■東北支店 下綾織作業所（岩手県 2014年7月）
工事への理解と関心を深めていただくことを目的に、地元のこども会の方々をお招きして現場見学会を行いました。当日は親子26人にご参加いただきました。当工事は、復興支援道路である東北横断自動車道釜石秋田線の法面工事ですが、その他の復興支援道路のトンネル工事や橋梁工事も合わせて、見学をしていただきました。子供たちには、日頃見ることのできない土木工事に興味を持ってもらう事ができました。最後に、参加頂いたお礼として、スイカ割りやジンギスカンの食事会も行い、楽しんでいただきました。



■東京支店 菅谷改良作業所（茨城県 2014年10月）
地元住民の方々に当工事についてご理解いただけるように、現場見学会を開催いたしました。建設機械パワーブレンダーのラジコンを展示したり、高所作業車を使用し、高い場所から現場全景を見て頂いていただきました。参加者の方々からはご好評をいただき、子供たちも日頃乗る事のない大きな建設機械の運転席に座り、喜んでもらうことができました。



■大阪支店 高野天川作業所（奈良県 2014年11月）
2011年8月、台風12号が紀伊半島へもたらした豪雨により、地すべりが発生し、天ノ川がせき止められるなど、大きな被害が発生しました。その復旧工事の進捗状況説明会を現場周辺住民の方々をお招きして行いました。当日は、20人の方々が参加され、工事概要を説明した後、実際に施行中の現場を見ていただきました。豪雨により大きな被害を受けた場所での復旧工事であったため、参加者の方々は熱心に説明を聞いて下さり、多くの質問もいただきました。参加者の方々からは、「これでまた大きな台風が来ても、安心できる」とご感想を頂きました。



■大阪支店 高野天川作業所（奈良県 2014年11月）
奈良県土木事務所とJICA主催によるケニア共和国の技術者を招いた技術研修会を当社で受け入れ、見学会を行いました。当日は、10人の技術者にご参加いただき、工事概要や工法の説明の後に、地すべり防止目的の法面工事を見学していただきました。見学後は日本の技術のみならず、安全管理や近隣住民の方々への配慮など、日本の建設会社が工事をする場合のノウハウや配慮などにも、強い興味をもたれ、その内容に関する事など、多くの質問を頂きました。

● 清掃活動等



■東北支店 桂浜海水浴場清掃活動（秋田県 2014年6月）
秋田県ジオファイバー協会の会員企業の皆さまと一緒に、秋田市にある桂浜海水浴場の清掃活動を行いました。当社から6人、総勢26人が参加しました。当社は、周辺道路と駐車場を担当し、芝刈り機を持ち込み雑草の刈り取りも行いました。その後トラックにゴミを積み込み、終了しました。当日は、好天に恵まれ、本格的な海水浴シーズンを前に、海水浴客が気持ちよく過ごせるように、周辺をきれいにすることができました。



■東京支店 H25新笹子作業所（山梨県 2014年4~5月）
山梨県にある新笹子トンネルにおいて、工事期間中に月2回、清掃活動を行いました。工事を行っていた本トンネルは、歩道のほとんどない狭いトンネルであるため、片側車線規制をしている工事作業前に工事関係者で清掃活動を行いました。トンネル内は車からのポイ捨てが多く、空き缶やコンビニの袋などのごみが集まりました。この活動で微力ながら周辺の地域美化に貢献できたと思います。



■名古屋支店 門島1工区作業所（静岡県 2014年12月~2015年3月）
現場周辺の道路清掃活動を、月1回行ないました。週末の作業後に職員・作業員・警備員などの総勢13人で行いました。現場周辺は木々が多く茂っていることもあり、落葉が大量に堆積し側溝が詰まるおそれがあったため、その部分は気を配り、清掃を行いました。作業中に通りかかる近隣の方々からは感謝の言葉をいただくことも多く、地元地域の方々にも喜んでいただけました。



■広島支店 檜原作業所（岡山県 2014年7~10月）
現場周辺の清掃活動を、月1回行ないました。国道2号線倉田高架周辺のゴミ拾いを注文者の協議会の方々と一緒に行いました。国道のバイパス沿いだったため、ポイ捨てが多く、空き缶を多く拾いました。また紅葉の時期は落葉が道路に散乱し、写真のように袋いっぱいのごみが集まりました。道路の清掃を通じて、周辺の美化活動に貢献できたのではないかと思います。

● 地域貢献

当社では、現場周辺の住民の方々や地域への貢献活動も積極的に推進しています。



■札幌支店 礼作別作業所
(北海道 2014年12月～2015年2月)
北海道の中川郡豊頃町礼作別では、作業期間中に大雪が2回降りました。1日の積雪が50cmにも達したときは、近隣の駐車場にも多くの積雪がありました。日頃、工事に、ご協力いただいている地元の方々へのお礼も兼ねて、除雪作業を行いました。作業は建設重機を使い、現場近隣民家の駐車場等の除雪を行いました。付近の住民の方々に、とても喜んでいただくことができました。



■東北支店 海岸防災林再生ボランティア活動
(宮城県 2014年4月)
東北支店では、東北森林管理局が募集した千年希望の丘整備の活動に協力し、宮城県名取市の海岸防災林再生地で植樹を行いました。植樹には、支店社員36人が参加し、0.1ヘクタール(1,000㎡)の植樹エリアで、クロマツ450本、ヤマザクラ30本を植えました。いずれ苗木が大きく育ち、津波の力を減衰させる津波除けになることが期待されています。



■東京支店 夕張の子供たちへ古本募金で新図書を贈る活動(東京都 2014年12～2015年3月)
苫小牧工業高等専門学校同窓会(樽前会関東支部)の呼びかけに賛同して、夕張市の子供たちに本を送る活動に協力しました。支店内において古本を回収し、その売却金を黄色いハンカチ基金へ寄付しました。ささやかな募金ですが、集められたお金は夕張市の小中学校向け図書購入費として活用されるとのことです。



■北陸支店 ECHIGO 棚田サポーター
(新潟県 2014年5月～9月)
ECHIGO棚田サポーターは、棚田を愛し、地域の方々と一緒に棚田を守るため、新潟県にある県農地部職員を中心結成されたグループです。北陸支店の有志は、その目的に賛同し、新潟県各地の棚田の草取り、清掃に協力しました。
2014年度は、5月から9月にかけて14回参加しました。
【活動内容】
①ため池周辺の草刈り・・・・・・ 3回
②用水路の江ざらい, 草刈り・・・・ 9回
③農道、畦の草刈り・・・・・・ 2回



■広島支店 広島土砂災害に伴う
災害ボランティア活動1(広島県 2014年8月)
8月に広島市を襲った豪雨による土砂災害被害者救済のためのボランティア活動に支店社員2名で参加しました。担当の被災家屋では、30人以上のボランティアが集まり、家屋の中に入った泥を人海戦術で袋に詰め、手渡しで屋外に運びました。また家屋近くまでトラックが入れないため、50m先まで手渡しで袋を渡して、積み込み作業をしました。住民の方には大変喜んでいただき、少しでも日頃お世話になっている住民の方々への恩返しとなっていれば幸いです。



■広島支店 広島土砂災害に伴う
災害ボランティア活動2(広島県 2014年8月)
8月に広島市を襲った豪雨による土砂災害被害者救済のためのボランティア活動に、尾道・松江自動車吉舎第2法面工事、尾道・松江自動車道吉舎地区法面工事、国道2号橋原防災外工事のメンバー18名で参加しました。まず集会所に集まり、そこで班分けされた後、被災された方々の家屋の片づけに向かいました。被災した住宅で、家屋や庭に入りこんだ泥や瓦礫を撤去する作業を、他のボランティアの方と一緒にを行いました。

● 学生の企業訪問・次世代育成

当社は、インターンシップや企業訪問など、建設業界への理解を深めていただくよう、学生の受け入れや、説明会を随時を行っています。



■大学生の現場見学と施工法説明会(新潟県 2015年2月)
北陸支店では、新潟大学工学部4年生(12名)を招き、新潟大堰のコンクリート補修工事の現場にて、見学会を行いました。見学会では、現在施工中の補修工法と、昨今の洪水状況などの説明を行いました。参加した学生は大学でコンクリートを研究しており、日本海に面して厳しい環境の中にあるコンクリートの劣化状態を見ることができ、今後の研究に大いに参考になったようでした。また質問も多くいただき、熱心に見学して頂きました。



■高校生の企業訪問(東京都 2014年12月)
本店では、鹿児島中央高等学校の学生4名による体験学習として行われた企業訪問の受け入れを行いました。
はじめにオフィス内で、建設業についての概要や当社建設技術・工法の説明を行いました。その後、近隣の浜離宮恩賜庭園に出かけ、そこから見える昔の灌漑などの土木技術について説明を行いました。学生たちは、当社を含めた建設業に関わる話に熱心に聴いていただきました。